

# きらめき通信 Vol.29

みなさんこんにちは、秋の気配が次第に濃くなって参りました。  
今回は、11月に開催されます『第6回学生交流会』のお知らせです。

学生、教職員、医療従事者対象

九州大学病院きらめきプロジェクト

## 第6回学生交流会

「キャリアデザインで輝く自分に！」

平成27年11月30日(月) 第1部 開演 18:00~

第2部 交流懇親会 19:15~(軽食付)

九州大学病院総合研究棟セミナー室105号室・サイエンスカフェ

演者：和栗百恵 先生(福岡女子大学国際文理学部准教授)



高校卒業後、中央大学総合政策学部にて一応生として入学。  
大学3年時に交換留学生としてアメリカのカールトン大学に  
1年間留学。卒業後、スタンフォード大学大学院修士課程を  
修了。スリランカや日本のNGOでの国際協力活動に従事した  
後、中央大学、早稲田大学、大阪大学で体系的な学習プログ  
ラムを開発・実施。

2009年10月より改称が福岡福岡女子大学に就任。

2010年から、新設された「国際文理学部」の教職員を務める。

学生がLearnする機会を拡大すべく

ほふく前進中!

- ✕ キャリア教育
- ✕ 体験学習
- ✕ 国際協力 など

【お問い合わせ・託児のお申込みはこちら】

九州大学病院  
きらめきプロジェクトキャリア支援センター  
TEL/FAX: 092-642-5203  
メール: kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp  
URL: <https://www.kyudai-kirameki.com>  
主催: 九州大学病院 福岡県医師会  
共催: 総合メディカル株式会社

※無料託児あり。1週間前までに要予約

第2部では



学生諸君、教職員の方々、是非お気軽にご参加下さい。



九州大学病院 きらめきプロジェクトキャリア支援センター  
きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1 2015年9月(隔月発行予定)  
TEL/FAX: 092-642-5203

MAIL: [kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp](mailto:kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp)  
URL: <https://www.kyudai-kirameki.com>



## 日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクター（医師2名）を紹介します。

### きらめきプロジェクトに参加して

卒後17年目の内科医です。研修2年、大学院を卒業し同時期に結婚しました。夫は医局の同期です。専門医も取得し、第1子出産後は大学院時代の指導教官のすすめで研究室の先輩が院長をしていた地方の病院に常勤医として勤務を再開しました。二次救急病院でしたので、外来はなく入院業務中心でした。院長も医師のご夫妻で子育てにも理解があり、当直は免除頂く等の配慮をして下さいました。二人目の出産時は育休取得もできてゆったりとした生活をしておりました。患者は高齢者も多く疾患は多岐にわたり外科治療も出来る病院でしたので、総合診療的な感性が身についたのではないかと思います。

第2子の子育てが軌道に乗ると院長の勧めで病院に睡眠時無呼吸症候群の検査である終夜ポリソムノグラフィ検査を導入する担当になりました。脳波などの生理検査を勉強するのは初めてでハードルは高かったのですが検査技師とともに仕事するのは楽しかったです。初期投資の回収も1年程度で終わり、地域の開業医や治療法の一つで歯科医が作製する口腔内装置治療をお願いできる歯科開業医とも連携がとれ3年ほど経過したところ平成26年の保険点数改訂で病院は病床利用方法を考え直す必要に迫られました。

悩みましたが、せっかく睡眠医療がおもしろくなってきていたこと、小児期の治療が重要であることが解っていても現状でその勉強は難しいことなど考え8年勤務した病院を退職することにしました。

お世話になった院長が大学で勉強してみたらと樗木晶子先生をご紹介下さり、きらめきプロジェクトを利用して九州大学病院睡眠時無呼吸センターに勤務する事になりました。私が学びたいと思っている小児診療が盛んというわけではありませんが、大学に在籍したことで久しぶりに国際学会に参加したり、研究会で発表したりと少しずつそのチャンスに巡り会えている気がしています。

きらめきプロジェクトの良い点、悪い点は利用する医師の状況でいろいろ違うのではないかと思います。私の場合、学術研究員という立場は研究費申請するに当たり有難いものでした。またいろいろな科の先生方とお話出来るのも新鮮で刺激的です。

### 自己紹介

18年目の眼科医です。医師の夫（腎臓内科医）と一人娘（3歳）の3人家族です。

### きらめきプロジェクトに所属するまで

大学卒業後、九州大学眼科に入局し、大学病院をはじめ近隣の国公立病院で勤務しながら外来診療や手術など臨床経験を重ね、入局から4年後にかねてから興味があった臨床研究を始めるため、医療情報部に所属しました。医療情報部では、疫学や統計などの基礎知識を勉強しながら、福岡県久山町で行われている久山町研究（疫学研究）に眼科医として参加して、眼科疾患の疫学研究を行いました。4年後に眼科医として臨床にもどり、その年に結婚しました。結婚した後も、臨床だけでなく研究もとても忙しい時期で、平日は夜遅くまで、土日も病院に来て、仕事に没頭していました。気が付くと30代後半で、もう子供は出来ないのかも？と思っていたところ、39歳で妊娠し、40歳で出産しました。妊娠したころは大学の助教をしており、外来業務や学生の教育、大学院生の指導、学会発表など多忙で休む暇もなく、体調も良かったので出産前日まで働きました。このまま産後も頑張れそうと思い、産後3か月で復帰しました。ところが妊娠中は自分が頑張ればなんとかなったのですが、産後は自分だけではなく子供もいるので思うように頑張れません。保育園に預けるたびに病気をもらってきては保育園を休まなくてははいけないし、さらに夜間の授乳や夜泣きのため私も十分な睡眠がとれなくなり、体調不良になりました。この状態で2年間頑張りましたが、高齢のせいか体調不良が続き、育児を続けながらこのまま仕事を続けていくことに不安もあり、きらめきプロジェクトに所属することになりました。

### きらめきプロジェクトに所属して

現在は大学病院の外来が週1日、外勤が週2日の勤務で、残りの時間は研究や家事などにあてています。常勤のときと比較して、時間にゆとりができて、体調も改善し、仕事も育児も自分のペースで楽しんでできるようになりました。またきらめきプロジェクトでは学術研究員という身分なので、科学研究費などの研究費もそのまま使用することができて、これまで続けてきた研究も継続できるのでとても助かっています。このようなきらめきプロジェクトの存在に大変感謝しています。

### 最後に

妊娠、出産を経験して、いくら頑張ろうと思っても仕事と違って育児は思うようにはならないというのがよくわかりました。女性は出産前後でライフスタイルが大きく変わるし、生活の上での優先順位も変わります。女性医師が仕事を継続していくためには、その時期に応じて仕事のやり方を変えていく必要があると痛感しました。そのためにはきらめきプロジェクトのようなサポートシステムはとても役に立ちます。これからもこのプロジェクトが続いて、多くの女性医師が仕事を続けて活躍できるように願っています。

大阪大学 大谷順子教授

## 「国際保健とジェンダー」講義(歯学部2年生対象)報告



大谷順子先生(大阪大学大学院人間科学研究科グローバル人間学専攻教授、大阪大学東アジアセンター長)は、大阪大学歯学部を卒業後、ハーバード大学公衆衛生学大学院、ロンドン大学経済政治大学院修了(PhD)、米国疾病管理予防センター、世界銀行、WHO等の職を歴任された後に大学にて活躍されています。講義では、最初にキャリアマネジメントについてお話されました。自分の向き・不向きを見極め、専門知識の蓄積やスキルアップ、さらに、フォーマル・インフォーマルなネットワークキングにより情報を収集、自己表現力を向上、リーダーシップ力を培うこと、それらを実現する語学力の向上などの重要性をご紹介くださいました。それらのお話を通して、先生が学生時代からアジアでの医療支援など活発に多様な経験を重ね、その後の幾多の困難もしなやかに対処してこられたことが伝わって来ました。

Health promotion は、日本では医学部や歯学部の公衆衛生学分野が担っている事が多くどちらかというマイナーな分野と捉えられている向きがあります。しかし、欧米では、医学と社会科学の融合した学問として、多様な人材が医療経済学、医療人類学、人間行動学などを用い、疾病、環境破壊、人権侵害、教育・難民、貧困等などの多様な課題に向き合っている事を伺いました。そうした活動は、国際機関が中心的な役割を担っており、日本の戦後復興も世界銀行による支持により実現されたことも触れられました。

国際機関活動の実例として、ユニセフの現ウクライナ代表の空尾雪絵さん出演のNHK「プロフェッショナル仕事の流儀」のビデオ視聴をしました。現地政府との非常に困難な交渉を粘り強く、希望を捨てずに進めていく過程で、組織の理想と限界をどのように両立するのか、自分の志と行動に自信を持って忠実に生きることの難しさと重要性を学びました。

次に、日本社会では女性が家事・育児・介護など無償労働を担っている現実、貧困問題も男性より女性でより深刻であることがデータで示されました。最後に、生産年齢人口が激減している日本社会では、女性の就労が経済発展の一つの有効な方法と考えられているIMF報告書について話されました。

私たちを取り巻く課題はたくさんありますが、それらにどのように立ち向かっていくのか、医療に携わる身として、若い人たちが先生のお話からどのようなメッセージを受け取り、今後の行動に結びつくのか、これからを楽しみにしたいと思います。

【文責 きらめきプロジェクト歯科部門統括責任者 城戸瑞穂】